

学級担任のまなざし 19

Okayama Prefectural Education Center

R2.7. 2[Thu]

「二つの笑い」

学校訪問の際、ある教室に「笑顔いっぱいの学級にしよう」という掲示がなされているのを見かけました。学級のめあてのようでした。みんなが笑顔で過ごせる学級になるといいなと思いました。

同時に、20年以上前に聞いた、元中学校教員のハツ塚実氏の講演を思い出しました。氏は、笑いに関して次のような内容の話がされました。

「笑いが野放しなのです。笑いが野放しだと、どうしても傷つく子が出る。仲間はずれが出る。今の世の中は笑いに無関心で鈍感すぎる。だから、僕は『ドッ』と笑う、人をさげすむ笑いをできるだけなくしていく努力を地道にやります。そして、『アッ』という驚き、本当の意味での喜びを集めようと中学生に話します。笑いには、絶対にしてはいけないものがあることを強く押さえます。」

先ほどの教室の背面には、「笑顔の木」と題した模造紙が掲示され、木の葉を模したカードがたくさん貼られていました。「休み時間に、いっしょに遊ぼうとさそってもらったとき、うれしかったです」というカードもあれば、「いっしょに練習していた友達が、なわとびで二重とびが20回できたとき、笑顔になりました」「教室のメダカが卵を産んだとき、感動して、笑顔になりました」というカードもありました。

笑いが人の心を温かくすることがあります。誰かが困難を乗り越えたとき、友達と協力して成し遂げたとき、素敵なものに出会えたとき、心と心が通い合ったときなどの笑いは、感動の笑いです。子どもたちと一緒に、「アッ」という感動の笑いが満ちあふれる教室が増えることを願っています。